市民力を活かす中間支援組織のランドスケープマネジメント

誌名	ランドスケープ研究
ISSN	13408984
著者名	佐藤,留美
発行元	日本造園学会
巻/号	73巻3号
巻号補足	
掲載ページ	p. 204-207
発行年月	2009年12月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council Secretariat

AgriKnowledge

市民力を活かす中間支援組織のランドスケープマネジメント

Roles of Intermediate Support Organizations to Facilitate Citizens Participations in Landscape Management

佐藤　留美*
Rumi SATO

1．はじめに

みどりの中間支援組織NPO birthは，平成18年度から東京都立公園の指定管理者となった。NPO birthが管理運営している都立公園は，アニメ映画「となりのトトロ」の舞台として描かれた狭山丘陵にある。この地域一帯には縄文時代から人々が住み着き，人と自然が一体となって里山の風景を作り出してきた。

狭山丘陵には，4つの都立公園がある。NPO birthは，これらの公園の管理運営を企業や他のNPOとのパートナーシップ(※1)で行っている。NPO birthの担当業務はソフト事業であり，中でも力を入れているのが市民との協働である。市民の力を活かすための専門部署である都民協動部を設置し，公園ボランティアの活性化に力を注いでいる。

本論では，市民力を活かしながらランドスケープマネジメントを行う中間支援組織の取り組みを紹介することで，ランドスケープづくりの主役である市民力の可能性を展望したい。

2．みどりの中間支援組織NPO birth

中間支援組織という言葉をご存じであろうか。インターネット上のフリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia)』によれば，「行政と地域の間にたって様々な活動を支援する組織のこと。　～中略～　市民意識の高い自治体，或いは市民意識の醸成を進めたい自治体において地域活性化を主眼として，行政と市民をつなぐ協働のモデルケースと位置づけられることも多く，今日，市町村において中間支援組織を軸とした地域活性化・協働事業を推進しようという動きが顕著となりつつある。」とある。

NPO birthはみどりの地域づくりを専門とする中間支援組織である。人と自然をつなぎ，人の心と心をつなぐことで，人と自然が共生できる社会づくりを目指している。

中間支援組織の役割は，コンピューターのOS（オペレーションシステム）に例えることができる。コンピューターは，ハードとOS，そして表計算やワープロなどのアプリケーションソフトから構成されている。OSは，ハードとソフト，ソフト間，ハード間を仲介し，快適なコンピューター利用を実現する。

地域づくりにおいて，中間支援組織はOSの役割を果たす。地域（ハード）と市民（アプリケーションソフト)，市民と市民，地域と地域の間を仲介し，パートナーシップで進める地域社会づくりを支える役割を果たす。市民活動が活発な米国では，中間支援組織は，地域づくりには欠かせない存在として活躍している。

NPO birthを設立した最も大きな理由は，市民力を上げることであった。1980年代から90年代にかけて，多くの市民団体が設立され，活発に事業を展開していた。しかし，多くの市民団体は課題を抱え，伸び悩んでいた。私もそうした市民団体の一員であった。

市民団体に限らず，どんな組織でも事業が活性化すれば，それに比例して，事業の下準備や事務作業などの裏方作業が増加する。企業や行政などの組織の場合には，管理部門が事業を下支えしてくれる。しかし，一般的な市民団体の場合には，管理部門を設けるゆとりはない。事業は活性化したいが，裏方作業が追いつかない。多くの市民団体がこのようなジレンマを抱えていた。

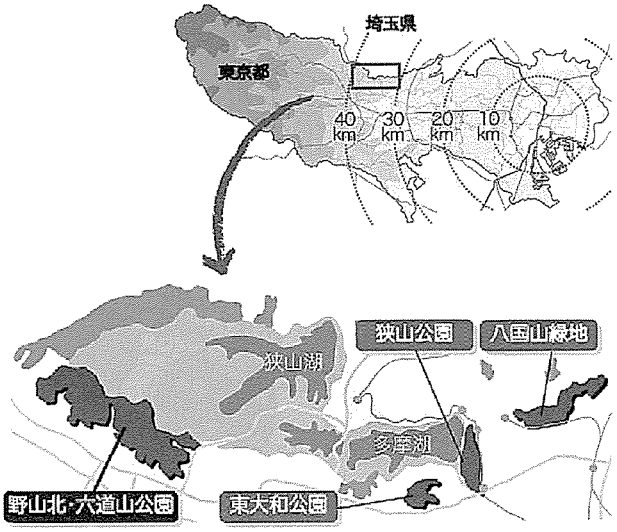
活動したい市民は，たくさんいる。しかし，その受け皿となる市民団体が脆弱では，市民力を発揮させられない。そこで，市民団体をサポートし，市民の力を社会の力に変える事を目的とした中間支援組織，NPO birthを設立した。

3．市民力を活かす中間支援組織の取り組み

市民力を活かすランドスケープマネジメントにおいて，中間支援組織がどのような役割を果たしているのかを事例で紹介しよう。舞台は，狭山丘陵の西端にある都内最大の都立公園，野山北・六道山公園（図－1）である。

当公園の管理運営におけるみどりの中間支援組織の基本的使命は，「市民を輝かせることを通して，公園（地域）を輝かせること」である。この使命のもと，市民力を発揮させるために，「市民力を方向づけ」「市民力を引き出す」ための施策を展開している。

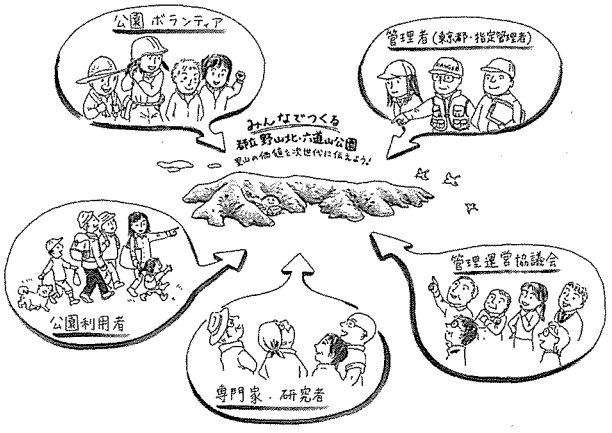
*NPO法人　NPO birth



図－1　野山北・六道山公園の位置図

（1）市民力を方向づける

都立野山北・六道山公園には，東京都が定めた管理運営方針がある。「都県境を越えて連なる丘陵地公園として，里山の自然あふれる環境特性を活かし，都民協働による動植物の生息地の保全に取り組み，自然学習・作業を通じて，普及啓発につとめること」。この方針を実現していくためには，公園に関わるさまざまな人々が，公園を「共有財産」と認識し，パートナーシップ，つまり協働型で管理運営していく必要がある。図－2は，協働型の公園管理運営の概念を示したものである。



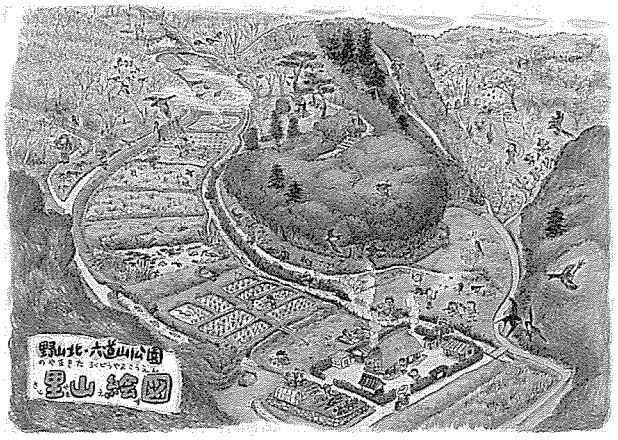
図－2　協働型公園管理運営の概念図

この図のように，多種多様な市民が関わり合い，パートナーシップで公園づくりを進めていくには，市民が具体的に行動できるように，方針を可視化し，道しるべとなる基準を示す必要がある。

（i）ビジョンの明確化

当公園で市民ボランティアのマネジメントを行うに当たり，最初に手をつけたのは，当公園のビジョンを創ることであった。ビジョンを創る事で，人々は目標を共有することができ，また，自分がやるべき事を見出す事ができる。そこで，公園のボランティアや関係者に，どんな公園にしたいのか，また何をすべきなのかをヒアリングし，それを一枚の絵にまとめた（図－3）。この絵の中には，公園の将来像として，四季折々に変化する豊かな自然の中で楽しく活動する人々の様子が描かれている。

この絵地図があることで，子どもからお年寄りまで，公園づくりの目標を一目で理解できるようになった。この絵地図は公園のパンフレットに掲載し，また，公園内の至る所に張り出し，関係者全員に周知している。

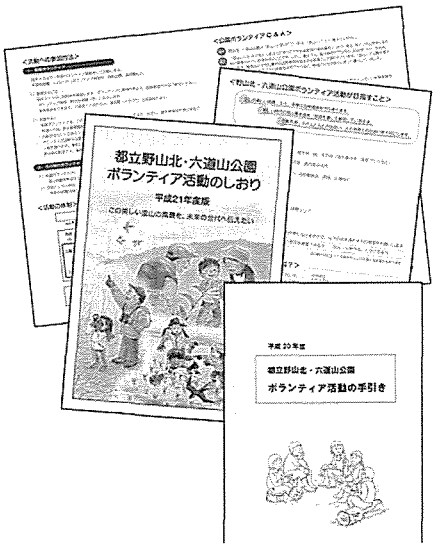


図－3　公園の将来像「里山絵図」

（ii）活動基準の明確化

次に手をつけたのは，活動基準づくりである。市民のボランティア活動は，多様な価値観，経歴などを持った人々による集団行動である。多様な人々が気持よく活動するためには，ルールを共有する必要がある。また，都市公園は，公共施設である。民有地とは異なり，法的な制限がある。公共施設で活動する市民ボランティアとして，何をやって良いのか，何をやってはいけないのかを明確にした上で活動する必要がある。

そこで，「ビジョンを実現するために，どのようなルールに沿って活動すべきか」をボランティア活動の手



図－4　ボランティア活動のしおりと手引書

引きという形で整理した。この手引書には，地域や公園の歴史文化，地域特性，公園ボランティアの心構え，活動ルールなどが記載され，当公園におけるボランティア活動のバイブルとして活用されている。

以上，「ビジョン」と「活動基準」は，公園づくりの基本理念として，ボランティアの説明会やオリエンテーションなどでも繰り返し示され，当公園で活動するボランティア全員に共有されている。

（2）市民力を引き出す

市民力は無限の力を秘めた無尽蔵の資源である。この資源をさらに輝かせるためには，公正で自由な立場を保障し，学習機会を提供し，コミュニケーションを促進する必要がある。

（ⅰ）公正で自由な立場の保障

当公園のボランティアは，公正で自由な立場を保障されている。一見，当たり前のことであると思われるかもしれないが，現実の市民活動の中では，必ずしも参加者の公正と自由な立場は保障されていないことがある。

公共施設などの市民活動でよく目にするのが「私物化，派閥化，高齢化」といった現象である。これは，一部の人が公共施設を私的に利用したり，また，グループ内に派閥ができ，対立したり，その結果，グループが閉鎖的な体質に進み，新しい人が加われず，高齢化していってしまう現象のことである。

これでは継続的な市民力の発揮は望めない。公正で自由な環境をつくるためのマネジメントに力を注ぎ，市民一人ひとりの力を引き出すことを心がけている

（ⅱ）学習機会の提供

当公園では，多種多様な学習機会を提供している。公園ボランティアは，各々の興味・関心，技術・知識レベル，年齢等に応じて，さまざまな学習機会を得る事ができる。学習できる内容は，生態系，植生調査手法，雑木林管理計画や技術，安全管理，救急救命，クラフト，ガーデニングなど，さまざまである。講師は，各種専門家が行っている。この専門家の中にはボランティアも含む。

多種多様な学習機会を提供することでボランティアの知識・技術は飛躍的に向上し，各人が楽しく，自信に満ちた活動ができるようになる。また技術・知識レベルを底上げすることで，ボランティア同士や，管理者とボランティアの合意形成がスムーズに進むようになる。

（ⅲ）コミュニケーションの促進

市民力を活かす最も効果的な方法は，コミュニケーションを促進することである。良いコミュニケーションは良い人間関係を育み，人々を元気にしてくれる。元気な人々が集う場所は，活気にあふれる素敵な空間となる。ボランティア同士，ボランティアと職員，地域や利用者とのコミュニケーションを積極的に進め，人間関係を育んでいる。

具体的には，日常的にいつでも相談を受けられるように，コーディネート専門の職員を配置している。またボランティア会議や懇談会など，定期的な話し合いの場を設けている。コミュニケーションは新たなアイディアと力を生み出し，地域力となって蓄積していく。

以上3点が，市民力を活かすポイントである。公正で自由な環境で，学び合い，交流し合うことで，市民力は無限の力を発揮する。

4．市民力の可能性

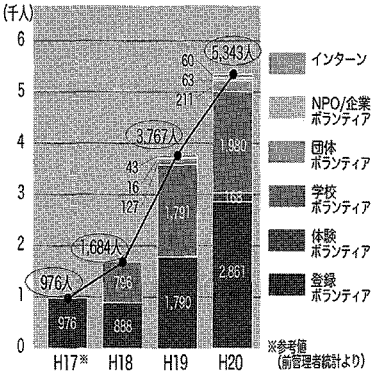
NPO birth が公園の管理運営を行い始めて3年が経った。

公園ボランティア登録者数は，平成18年度の68名から247名と3.6倍に急増し，年間延べ参加者数は，平成17年度の976人から5,343人へと5.5倍となった。

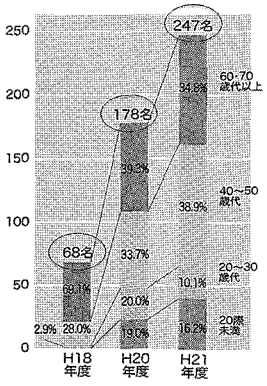
ボランティアの年齢層も大きく変化している。かつては60歳以上に偏っていた登録者が，現在は，40歳～50歳台を中心とするバランスの良い年齢構成となった。

ボランティアによる活動範囲も飛躍的に拡がった。活動面積は，平成18年度の3.5haから平成20年度には2.7倍の9.4haとなった。活動内容は，田畑や雑木林の管理作業から環境調査，伝統文化の継承，環境教育，イベントなど，自然発生的に拡がっている。

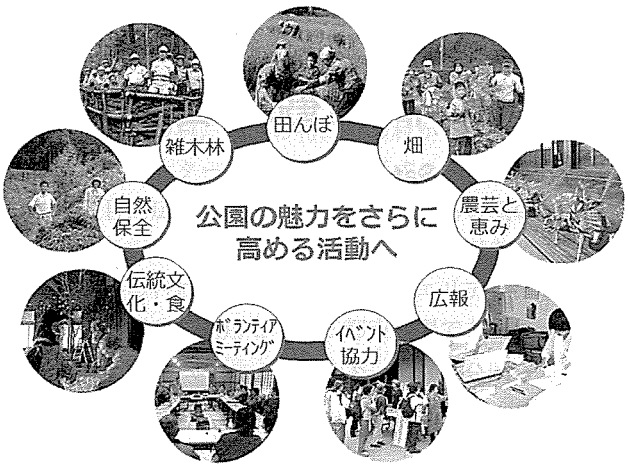
また，活動の質も大幅に向上した。ボランティアの安全



図－5　ボランティア活動への年間の参加延べ人数



図－6　公園ボランティア登録者数と年代構成



図－7　多様化するボランティア活動内容

意識が向上し，年4回の安全講習が開催されている。日常の安全管理にもぬかりはない。ボランティア自らが朝礼，作業前の危険予知活動，終礼，報告書の作成を行い，作業の安全を守っている。管理技術も向上している。生態系調査技術や雑木林・田畑の管理は，プロにも勝るとも劣らぬ技術力である。さらにボランティアがボランティアを育てる仕組みも生まれ，公園ボランティアは量的にも質的にも，非常に充実した活動を展開している。

想像してみて欲しい。年齢，経験，知識，視点の異なる247名のボランティアが，一つのビジョンを実現するために，アイディアを出し合い，汗を流し，育み合うのである。人と人との出会いが，新しいアイディアと行動を生み出し，そこから新しいコミュニティが生まれ，人と自然の新しい関係を創造し続ける。

公園内で生まれた市民力の核は，現代社会が抱える課題を解決する方向に向けて，自らの舵を取り，効果的な秩序を作りながら自己組織化していく。その姿は，環境に適応しようと進化してきた生物のようであり，賢く，生命力に満ち溢れている。そして，その無限の可能性は，軽く公園のエリアを乗り越え，地域へと拡がっていく。

ランドスケープは，人が意味を見出し続ける動的な空間であると考えている。安全で健やかな暮らしを願う人々が集まり，交流することで，自然と共生できる文化が生まれ，その文化を形づける景観としてランドスケープは真の姿を現してくれる。

地域を愛し，仲間と共に汗を流す市民の活躍の地平に，人と自然が共生する持続可能なランドスケープの拡がりを予感せずにはいられない。

図－8　笑顔で来園者を迎えるイベントスタッフ（里山春祭り）

5．おわりに

当公園の取り組みは，東京都の指定管理者評価で平成19年度，20年度と連続で優良の評価を受けている。また平成21年度の都市公園コンクール管理運営部門では「新たな協働型パークマネジメント」というテーマで国土交通大臣賞を受賞した。いずれも市民協働が高く評価された結果である。これは，市民力によるランドスケープマネジメントの可能性を，広く社会に示した成果であると考えている。

引用文献

1）狭山丘陵の都立公園 管理運営概要（平成18，19年，20年度版）
2）都立野山北・六道山公園「ボランティア活動の手引き」

参考文献

NPO法人NPO birth（2001）サンフランシスコ市の環境保全と中間支援NPOの取り組み

イラスト制作　丹星河（NPO birthレンジャー部インタープリター），蜂須賀公之（NPO birth理事，レンジャー部長）

※1　西武・狭山丘陵パートナーズ…3つの企業，2つのNPOの共同事業体。平成18年度より狭山丘陵の都立4公園の指定管理者となる。西武造園株式会社，西武緑化管理株式会社，株式会社タム地域環境研究所，NPO法人地域自然情報ネットワーク，NPO法人NPO birthを構成員とする。